

(第1号様式)

プロジェクト登録申請書兼Jブルークレジット[®] 認証申請書

2024年10月17日

ジャパンプルーエコノミー技術研究組合 御中

(代表申請者) 兵庫漁業協同組合

住所：神戸市兵庫区吉田町3-7-2 9

氏名：代表理事・組合長 糸谷 末二郎 ④

法人番号：6140005002583

(共同申請者) 兵庫運河を美しくする会

住所：神戸市兵庫区材木町1-2

氏名：会長 服部 鋭治 ④

(共同申請者) 神戸市立浜山小学校

住所：神戸市兵庫区材木町4-2

氏名：校長 中野 忠行 ④

(共同申請者) 兵庫・水辺ネットワーク

住所：神戸市灘区一王山町10-8

氏名：幹事 安井 幸男 ④

(共同申請者) 兵庫運河・真珠貝プロジェクト

住所：神戸市兵庫区今出在家町2-1-16-701

氏名：会長 道林 幸次 ④

Jブルークレジット制度実施要領の規程に基づき、次のとおりプロジェクト登録兼クレジットの認証を申請します。

プロジェクト番号	202112JBCA00003
プロジェクト名称	兵庫運河の藻場・干潟と生きものの生息場づくり

<p>プロジェクト区分 (複数選択可)</p>	<p>人工基盤 吸収源の新たな創出 吸収源の回復、維持、劣化抑制</p>
<p>プロジェクト情報</p>	<p>兵庫県神戸市兵庫区に位置する兵庫運河は、昭和の高度成長期には水質汚濁が進みヘドロが堆積しメタンガスが発生するなど生きものの棲息が難しい環境でした。</p> <p>その後、水質汚濁防止法等の環境法令の施行、地元住民や企業などによる地道な保全活動などにより、運河の環境改善が図られています。</p> <p>具体的には、藻場再生、干潟、浅場が有する生態系保全（水質浄化、生物多様性保全、気候変動緩和、憩いの場の提供等の多面的価値）を目的に、地元漁協、地元企業、市民団体、地元小学校が協働し、環境改善に関する様々な活動に取り組んでいます。</p> <p>(活動組織)</p> <p>2013年（平成25年）に、兵庫漁業協同組合、兵庫運河を美しくする会、兵庫・水辺ネットワーク、兵庫運河・真珠貝プロジェクトにより「兵庫運河の自然を再生するプロジェクト」を立ち上げました。また、2016年（平成28年）からは神戸市立浜山小学校もメンバーに加わりました。</p> <p>(干潟整備)</p> <p>2015年（平成27年）には、神戸市により「材木橋たもと浜（きらきらビーチ）」（以下「きらきらビーチ」と言う。）が整備されました。</p> <p>2020年（令和2年）には、国土交通省近畿地方整備局により、浜山小学校前に、「兵庫運河港湾発生材活用・干潟実証試験場（愛称：あつ浜）」（以下「あつ浜」と言う。）が整備されました。</p> <p>(活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2014年（平成26年）からアマモの播種、2015年（平成27年）から栄養体移植を開始し、アマモ場づくりを行なってきました。 ・2つの干潟と周辺海域を中心に、運河周辺道路を含む清掃活動、藻場の造成、粗朶沈床の設置、小学校の観察会、アサリ学習など、多様な活動を継続的に行なってきました。 <p>(ブルーカーボン)</p> <p>以下のようなブルーカーボン生態系の炭素吸収による気候変動の緩和策として、造成された藻場・干潟の維持管理に関する自主的なプロジェクトを実施してきました。</p> <p>●兵庫運河へのアマモの移植活動</p> <p>2014年7月に材木橋たもとで播種を開始し、2015年からは栄養体を新川橋～浜山小学校前間の間に移植し、現在に至ります。また、近年は、美しくする会清掃時、地元小学校イベント時などに播種しています。</p> <p>●「あつ浜」プロジェクト</p> <p>2020年（令和2年）に港湾構造物の撤去材を再利用して造成された「あつ浜」は、生物生息場の創出に関する実証実験を目的としています。</p> <p>同年11月のオープン以降、「あつ浜」は「兵庫運河の自然を再生するプロジェクト」の活動拠点として、種々の環境保全活動を展開しています。</p> <p>同プロジェクトでは、「あつ浜」と周辺海域において、生きもの調査、藻場のモニタリング、小学校の環境学習による啓発活動、ゴミ回収等の清掃活動、アマモの種子の播種などの活動を通して、干潟及びその周辺の生物多様性の向上を図っています。</p> <p>●「きらきらビーチ」プロジェクト</p> <p>2015年（平成27年）「きらきらビーチ」造成後、アマモ場づくりを目指して、2019年（令和元年）まで、5年間にわたり舞子漁港内に自生するアマモを採取して栄養体移植をしてきました。2017年（平成29年）からは、花穂（種子）の形成が確認されるようになりました。</p> <p>それ以後は、種子の自然拡散、また、小学生や清掃活動時の播種イベントにより、生育範囲が徐々に広がりつつあり、多様な生きもの生息も確認されるようになってきました（コウイカ産卵、シリヤケイカ産卵、メバル、カタクチイワシなども確認しています）。</p> <p>【申請理由、今後の見通し等】</p>

プロジェクト情報	<p>2つの干潟と周辺水域における藻場、干潟の保全や活用に関わるこれまでの活動は、「兵庫運河の自然を再生するプロジェクト」により行なってきました。</p> <p>これらの活動を今後継続・拡大するためには、資機材の調達、備船費（燃料代）等、必要な財源の確保が必要です。</p> <p>Jブルークレジットは、年限がある助成金とは異なり、継続した財源と成り得ることに加え、クレジットを購入する企業の活動への関与・参加による波及効果も期待できることから、兵庫運河の活動継続・拡大に最適であると考えています。</p> <p>今後は、クレジット取得により調達された資金を活用し、モニタリング、環境学習、藻場造成を含めた維持管理活動等を継続的に実施するほか、これらの活動で得られた成果を地域住民や地元企業だけではなく広く全国に情報発信し、このプロジェクトを地域の誇りとなるプロジェクトに発展させていきたいと思ひます。その結果として、より多くの人材や企業の自主的な参加を促し、気候変動緩和策の持続的な実施体制の構築を図りたいと考えています。</p>
申請対象期間に実施した活動の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・兵庫運河及び「あつ浜」でのアマモ場造成と維持管理（炭素吸収量の拡大のための育苗・移植・モニタリング） ・「あつ浜」と「きらきらビーチ」での環境学習（持続的な活動の基盤となる啓発活動） ・兵庫運河内の清掃活動（炭素吸収量の維持管理活動） <p>【申請者の役割分担】</p> <p>兵庫漁業協同組合、兵庫運河を美しくする会、神戸市立浜山小学校、兵庫・水辺ネットワーク、兵庫運河・真珠貝プロジェクトがそれぞれ行なう活動もありますが、アマモ場づくり、清掃活動、環境学習、生物調査などほとんどの活動は、相互に協働し行なっています。</p>
プロジェクト実施開始日	平成27年7月～現在

項目1	①対象生態系面積の算定方法	【生態系】海草 【藻場】アマモ場 【構成種】アマモ
	②クレジット認証対象期間	2022年09月20日～2023年09月19日
	③対象とする面積	【面積】 0.6(ha) 【面積の算定根拠】 現地調査の結果より算定【面積については、アオサと干潟については安全率を見込み90%とし、アマモについては、X軸Y軸とも調査範囲を特定し測線に沿って被度を確認しているため100%とした。 また、吸収係数は安全率を見込み80%とした。】 【面積の資料】 認証申請書別添資料.docx
	④吸収係数	【単位面積あたりの吸収量】 4.9 【単位面積あたりの吸収量の算定根拠】 桑江ら(2019)の表-4に記載されているアマモ場の吸収係数(4.9t-CO ₂ /ha/年)を用いた。 【単位面積あたりの吸収量の資料】 添付ファイルなし

項目1	⑤吸収量算定方法	<p>【計算に利用した式】 式1</p> <p>【算定結果（吸収量）】 2.939(t-CO2)</p>
	⑥確実性の評価	<p>【対象生態系面積等の評価】 90%</p> <p>(面積：0.6(ha)×評価：90%)</p> <p>【吸収係数の評価】 70%</p> <p>(吸収係数：4.9×評価：70%)</p>
	⑦調査時に使用した船舶の情報	<p>【船舶の種類】 調査船 (51kW / 70PS 程度)</p> <p>【台数】 1隻</p> <p>【稼働時間】 6.00(h)</p> <p>【出力】 51.00(kW)</p> <p>【燃料の種類】 ガソリン</p> <p>【CO2排出量】 0.103(t-CO2)</p>

<p>項目1</p>	<p>⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量</p>	<p>【ベースラインの評価】 100%</p> <p>【CO2吸収量】 0(t-CO2)</p> <p>(入力値0×評価：100%)</p> <p>【設定した根拠】 兵庫運河はかつてヘドロの海で自生するアマモは確認されていなかったこと、また、「あつ浜」「きらきらビーチ」とも兵庫運河に造成された人工干潟であることから、ベースラインをゼロとした。</p> <p>【資料】 添付ファイルなし</p>
	<p>⑨クレジット認証対象の 吸収量</p>	<p>1.749(t-CO2)</p>

項目2	①対象生態系面積の算定方法	【生態系】海藻 【藻場】緑藻型 【構成種】緑藻
	②クレジット認証対象期間	2022年09月20日～2023年09月19日
	③対象とする面積	【面積】 0.02(ha) 【面積の算定根拠】 現地調査にて算定 【面積については、アオサと干潟については安全率を見込み90%とし、アマモについては、X軸Y軸とも調査範囲を特定し測線に沿って被度を確認しているため100%とした。 また、吸収係数は安全率を見込み80%とした。】 【面積の資料】 添付ファイルなし
	④吸収係数	【単位面積あたりの吸収量】 0.7 【単位面積あたりの吸収量の算定根拠】 【算定した式】 活動量 × 吸収係数 【算定結果（吸収量）】 1. アオサ $0.02\text{ha} \times 0.7\text{t-CO}_2/\text{ha}/\text{年} = 0.014\text{t-CO}_2$ 【単位面積あたりの吸収量の資料】 添付ファイルなし

項目2	⑤吸収量算定方法	【計算に利用した式】 式1 【算定結果（吸収量）】 0.013(t-CO2)
	⑥确实性の評価	【対象生態系面積等の評価】 80% (面積：0.02(ha)×評価：80%) 【吸収係数の評価】 70% (吸収係数：0.7×評価：70%)
	⑦調査時に使用した船舶の情報	船舶使用なし

<p>項目2</p>	<p>⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量</p>	<p>【ベースラインの評価】 100%</p> <p>【CO2吸収量】 0(t-CO2)</p> <p>(入力値0×評価：100%)</p> <p>【設定した根拠】 兵庫運河はかつてヘドロの海で自生するアマモは確認されていなかったこと、また、「あつ浜」「きらきらビーチ」とも兵庫運河に造成された人工干潟であることから、ベースラインをゼロとした。</p> <p>【資料】 添付ファイルなし</p>
	<p>⑨クレジット認証対象の 吸収量</p>	<p>0.007(t-CO2)</p>

項目3	①対象生態系面積の算定方法	<p>【生態系】干潟 【藻場】干潟 【構成種】干潟</p>
	②クレジット認証対象期間	2022年09月20日～2023年09月19日
	③対象とする面積	<p>【面積】 0.04(ha) 【面積の算定根拠】 現地調査にて算定 【面積については、アオサと干潟については安全率を見込み90%とし、アマモについては、X軸Y軸とも調査範囲を特定し測線に沿って被度を確認しているため100%とした。 また、吸収係数は安全率を見込み80%とした。】 【面積の資料】 認証申請書別添資料.docx</p>
④吸収係数	<p>【単位面積あたりの吸収量】 2.6 【単位面積あたりの吸収量の算定根拠】 文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参干潟 桑江ら（2019）の表-4に記載されている干潟の吸収係数（2.6t-CO2/ha/年）を用いた。照 【単位面積あたりの吸収量の資料】 添付ファイルなし</p>	

項目3	⑤吸収量算定方法	<p>【計算に利用した式】 式1</p> <p>【算定結果（吸収量）】 0.104(t-CO2)</p>
	⑥確実性の評価	<p>【対象生態系面積等の評価】 80%</p> <p>（面積：0.04(ha)×評価：80%）</p> <p>【吸収係数の評価】 70%</p> <p>（吸収係数：2.6×評価：70%）</p>
	⑦調査時に使用した船舶の情報	船舶使用なし

項目3	⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量	<p>【ベースラインの評価】 100%</p> <p>【CO2吸収量】 0(t-CO2)</p> <p>(入力値0×評価：100%)</p> <p>【設定した根拠】 兵庫運河はかつてヘドロの海で自生するアマモは確認されていなかったこと、また、「あつ浜」「きらきらビーチ」とも兵庫運河に造成された人工干潟であることから、ベースラインをゼロとした。</p> <p>【資料】 添付ファイルなし</p>
	⑨クレジット認証対象の 吸収量	0.058(t-CO2)

合計のクレジット認証対象の吸収量	1.8 t
------------------	-------